

光が丘プレーパークQ&A

Q : 参加したい時は、どうしたらいい?

A : 予約不要で、開催時間内の10時~17時の間いつ来てもいつ帰ってもOKです。まずは「受付」で参加人数や学校等を書いて、呼び名のテープを貼ってくださいね。

Q : 持ち物は?

A : 汚れてもいい服と靴がおすすめ。着替えもあると水遊びや泥遊びも安心。お弁当を持ってきたら、公園の中どこでも食べられますよ。

Q : プレーリーダーってどんな人たち?

A : 有償のスタッフです。NPO法人PLAYTANKの常勤職員が「専門職プレーリーダー」地域在住の父母が週末だけプレーリーダーになる「地域プレーリーダー」アルバイトの「学生プレーリーダー」の3タイプがいます。受付に、今日のプレーリーダーの顔写真を掲示しているので、何かあれば気軽に声をかけてくださいね。

「自分の責任で自由に遊ぶ」って?

「自分の責任で自由に遊ぶ」は、プレーパークが掲げるスローガンです。子どもが自分で考えて、やりたいことをして遊ぶ「自由」と、遊べば起きるケガ(すり傷や軽い打撲等)やケンカの痛み、失敗や思い通りにできない悔しさ等を、子どもが自分で受けとめて対処していく「責任」を、大人が奪わないことを心がけよう!という呼びかけです。

「やりたい!」ことをして遊んでいる子どもたちは、とても楽しそうです。楽しいから、痛みや悔しさにプチ当たっても諦めない、挑戦し続ける、どうしたらいいんだろう?と自分で考える。子どもは自由に遊びながら、生きていくために必要な様々な「力」を、自ら育てています。

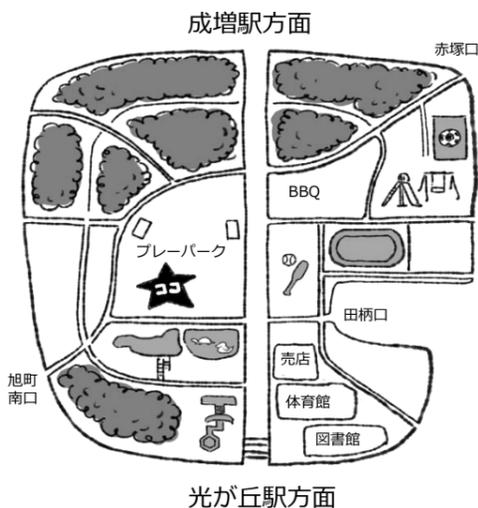
プレーパークには、大人が考えた体験プログラムはありません。プレーリーダーは、遊びの指導をしません。子どもが自分で見つけた「やりたい!」ことを、自分のやり方で、いろんな人とあーだこーだ言い合いながら、楽しく、満足するまで、やり続けることが「自分の責任で自由に遊ぶ」だからです。

Q : プレーパークってどんな組織? 運営資金は?

A : プレーパークは、地域の住民ボランティアが地域の子どものために開催する「市民活動」です。『光が丘プレーパーク』は、NPO法人PLAYTANKが運営資金の確保とプレーリーダーの雇用&育成をして、地域住民の活動を支えています。例えば2022年度の運営資金内訳は、約1/2は練馬区の補助金、約1/4が単年度の助成金、約1/4が地域のみなさんからの寄付です。

Q : 子どもだけで遊べる? 中学生やおじいちゃんおばあちゃんも参加できる?

A : 小学生は子どもだけで遊びに来てOKですが、未就学児は保護者の方の同伴をお願いします。中学生やシニア世代の参加も大歓迎です。



○ 都立光が丘公園「芝生広場」の南側
都立大江戸線「光が丘駅」下車徒歩8分
○ 営団成増駅よりバス8分「旭町南地区区民館」下車、光が丘公園旭町南口より徒歩3分

●動画配信のご案内

もっとプレーパークを知りたい方へ

子どもも大人も楽しく遊ぶ♪プレーパークで育つ子どもたちのことと、プレーリーダーの思いや様子などを紹介する動画です。



ご視聴を希望される方は、コチラからお申込みください。
<https://onl.tw/UFSJypD>

●イベントのご案内

「はじめてのプレーパーク!」に参加したい方へ

2月25日(土) 26日(日) 14時~16時
「プレーパーク」を体験してみよう!

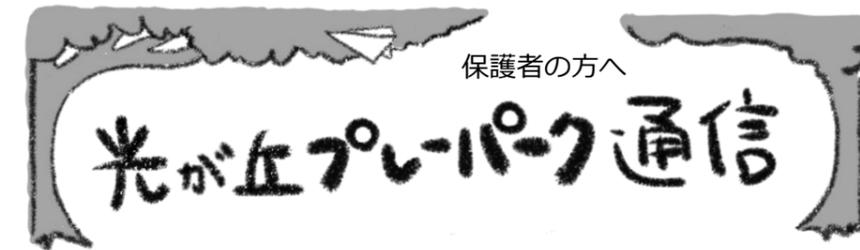
申し込み不要です。当日「光が丘プレーパーク」に来てください。14時から会場の説明をした後は、自由な遊び時間ですが、担当は16時まで会場に居るので、気軽に質問してください。

発行: NPO法人 PLAY TANK

住所: 練馬区旭町1-16-1 Mail: contactus@gmail.com HP: <https://playtank.tokyo/>

FB: <https://www.facebook.com/playtank.tokyo> Instagram: <https://www.instagram.com/hikarigaokaplaypark>

保護者の方へ



プレーリーダーは、みんなの「やりたい!」ことができるように協力します。「〇〇〇をつくりたいなー」「こんな道具ある?」「できない! わからない!」時には、気軽に声をかけてね。一緒に考えるよ~。

プレーリーダー



『光が丘プレーパーク』は、自然豊かな光が丘公園に、毎週末現れる「みんなの遊び場」です。バケツ、スコップ、ロープ、布、トイ、カマド、工具などの道具類と、斜面、木、虫、生き物、落ち葉、水、火などの自然を自由に使って、みんな夢中になって遊んでいます。小さな子も大きな子も、大人の方々も、一緒に遊びましょう♪
※プレーパークは、通常の公園にある禁止事項の一部を取り除く許可を、自治体や公園管理事務から得ているので、穴掘り、焚火、木登り等ができます。

練馬区教育委員会補助事業「外遊びの場の提供事業」
令和5年2月号

無料・だれでも遊べる
毎週土曜・日曜 10時~17時
※昼休み12~13時
※第2土曜日は開催していません。

光が丘プレーパーク
instagramを見てね



Follow us!

子どもの様子と 参加者の声

「おれはプレーパークで、
ヒーローになる！」

2年生男子



エピソード その1 すき！で広がる世界

小さな生き物を捕まえることが好きな低学年男子。捕まえたトカゲ、カナヘビ、カブトムシ、カエル等を、プレーパークに持ってきます。時には、カブトムシの幼虫がバケツいっぱいに入っていたり、蛇を連れて来たことも！

彼は、幼児の頃からお父さんお母さんと一緒に、自然豊かな広ーい光が丘公園中で生き物を捕獲してきたので、小学生になった今では、どこにどんな奴が潜んでいるのかを知っているのです。

最近の彼は、親ではない他の誰かと一緒に生き物を探ることが楽しくて、「〇〇探しに行こう！」と色々な人を誘うようになりました。彼の捕獲仲間も、幼児親子、同学年、高学年と年齢の幅広いです。時には初めてプレーパークで会った子どもと一緒に出かけます。

また、捕まえた生き物をみんなに見せて、「どうやって捕まえるの?」「どうやって飼うの?」など質問されることに対して「答える」ことも楽しむようになりました。彼の説明は、生き物の特性をよく捉えていてわかりやすいので、大人が彼に質問することもあります。そして答えられなかった質問は、図鑑やネットで調べてアップデートしているそう。

小さな頃からずっと好きな生き物の世界。彼は好きなこと楽しく♪やり続けながら、着々と、世界を広げているようです。



「いろんなことが
できるから、
とにかく楽しい♪」
4年生男子

エピソード その2 「探求」に失敗はない



大人が粘土をこねてつくった土器を、たき火で焼いていたら…パン！と大きな音がして、割れてしまいました。

なぜ割れた?粘土に空気が入った?乾燥時間が短い?火の温度が低い?と話すも理由はわからず、大人たちは解散しました。ところが、そんな大人たち様子を見ていた高学年男子2人の探求心に…火がついたようです。

彼らはまず、土器に空気が入らないように、ハンバーグの空気抜き要領で、威勢よくパンパンと音を立てながら粘土の空気抜きをしました。そして、パンをこねるように体重をかけて、粘土を滑らかにこね上げました。また乾燥は、翌日まで1日ねかせるものと、来週まで1週間ねかせるものの2タイプ用意し、さらに高温で一気に焼くために、上下火が入るフタ付き「窯焼き型の炉」を組み、こまめに温度を測り高温を保ち続ける…という徹底ぶり。

(窯焼き型の炉は、プレーパークでアルミ缶を溶かしの加工遊びをした時につくり方を知ったようです。温度計は1000度という高温が計れる温度計を使用します。)

ところが翌日、乾燥1日後の土器にはヒビが入り、さらに翌週、乾燥1週間の土器にもヒビが入るとい、結果になりました。しかし二人には、落胆した様子はありません。それどころか、「ヒビを入れないで土器を焼くって、難しんだよ」と、まるでその道を極めた人のような、したり顔でプレーリーダーに話し、ひと仕事が終わった後の大人のように大きく伸びをして、スッキリした顔をして帰っていきました。

「探求」には、「失敗」はないのかもしれない。こうしたらいいかな?いや、違った。じゃあ、これはどうだ?と、あの手この手を考えて、やってみることを繰り返す、試行錯誤のプロセス自体を楽しむことが探求遊び。だとしたら、難解なほど楽しいのかもしれない!



「プレーリーダーは
先生と違う。
話しやすい。」

小5女子



エピソード その3 みんなで楽しむ♪即興ライブ

4年生女の子3人組。得意のダンスを披露する「ライブ」を始めました。まずはステージをつくり、選曲して、リハーサルをして、さあ本番!彼女たちは、ダンスの大会に出る実力者なので、ピンと伸びる腕も、シュッと切れのいいターンも、かっこよくて華やか。そんな彼女たちのライブを観ていた幼児たちは、音楽に合わせて体を揺らしたり、飛び跳ねたりと、とても楽しそう。そんな楽しい雰囲気、なんだなんだ?と人が集まり、「いいね!」「かっこいい!」という声援と拍手が起きるライブは、大成功でした。

ステージを終えた彼女たちに集まる人たちから、「ウクレレ弾けるよ!」「私も歌いたい!」「タンバリンで盛り上げる?」「〇〇の曲なら、運動会で踊ったから踊れるー」と、いろいろな声が出てきて…じゃあ、みんなが出演する2回目のライブをやろう!1時間後!という、嬉しい急展開となりました。

とはいえ、幼児から小学生の6組、総勢20名もの出演者…大丈夫かな?と思った子が「演出やる」と言いました。演出家は、幼児が出番を待たなくてもいいように最初の出演にしよう。プレーパークにある打楽器を観客席に置いて、誰でもセッションできるようにしよう。など、ライブが更に盛り上がる工夫をあれこれ考えます。

そして本番!出演者と観客の一体感抜群のライブは、大盛り上がり♪♪ みんなが、楽しい時間を過ごしました。

すると翌週も、「私、リコーダー持ってきたから、またライブやろう」「次は、ダンスの衣装つくりたいんだよねー」「マジックショーもライブに出演できるよね?」という声が次々とでて、また即興ライブが始まり…と、即興ライブ遊びが定番になってきた頃には、三味線、クラリネット、トランペット等の演奏が趣味の大人が楽器持参で遊びに来る日が増えて、子どもと大人のセッションが頻繁に起きるようにもなりました。

その場にいる人たちのノリで始まり盛り上がる、この「ライブ」遊びは、開演中の飛び入り出演も、大歓迎♪です。

「子どもが育つすべてが!
プレーパークにあった」

6年生の母



エピソード その3 一人で登る、一人で滑る

プレーパークには全長さ20m 角度30度位のゆるやかな斜面があって、スケートボードでこの斜面を滑り降りるスリル満点の遊びが人気です。

お姉ちゃんと一緒に、赤ちゃんの頃からプレーパークに遊びに来ている3歳の女の子は、大きい子たちが勢いよく滑る様子を見たり、時にはママに抱っこしてもらい、2人乗りでこの斜面を滑ることを楽しんでいました。

ところがある日、ママと一緒にスケートボードを持って斜面の上までいくと、「自分で滑る」と言い出したのです。そして、恐る恐る、お腹を板に付け寝そべる姿勢で、ゆっくりと…下まで滑りました。そして、「すごい!やったね!」と、かけよってくれたママに抱きついて、嬉しそうな笑顔。

すると「もう1回やる」と言い、また彼女の身体には大きくて重いスケボーを「自分で持つ」と言い…重いスケボーを両手で抱えて、「よいしょ、よいしょ」と声をかけながら、一人で斜面を登り切りました。そしてまた、真剣な表情でスケボーに乗って、体制を整え、ゆるりゆるりと…滑り切りました。

結局その日、彼女は帰る時間になるまで、何度も何度も、黙々と、一人で登り一人で滑るという「重労働」を繰り返していました。

「異年齢の兄弟姉妹が
みんなで1日楽しめる所」

幼児と小学生の母

「趣味の技で、
子どもたちが
笑顔になって
くれて嬉しい」

小学生の父

プレーパークは、ロープ遊具づくり、木工、たき火番、楽器演奏、生き物捕獲、ベーゴマ回しなど、子どもたちの遊び心を刺激する保護者や地域の大人の方々関わりを支えていただいています。子どもと一緒に♪プレーパークを楽しんでください。

